

# 大好き!絵本

初瀬 恵美



『めっきらもっきら  
どおん どん』  
さく:長谷川摂子  
絵:ふりや なな  
出版社:福音館書店

今から10年ほど前、娘たちが大好きだった絵本に『めっきらもっきら どおん どん』があります。今でも時々「あの絵本に出てくる おもち、めっちゃ おいしそうだったよね。」と会話にでてくるので、高校生になった娘たちに、久しぶりに読んでみました。すると「懐かし〜」と言いつつも、大好きだった絵本のフレーズや登場人物の名前は忘れていました。でも絵はよく覚えていて「この絵が怖かった!」「あ、このシーン好きだった!」とか、話してくれました。こうして、子どもたちと絵本を振り返る日がくるとは、10年前は思いもよりませんでした。とても幸せで楽しい時間でした。それと同時に名作なのに近年、保育園の子どもたちになじみが薄くなっていることにも気が付きました。そこで今月の「大好き!絵本」で紹介させていただくことにしました。

主人公はかんたという男の子。ある日遊ぶ友達が誰もいなくて、むちゃくちゃな歌を歌いました。その歌をきっかけに異世界に迷い込むお話。異世界(夜の山)では、おかしな三人組に出会い友達になりました。化け物のような3人組ですが、泣いたり、笑ったり、喧嘩したり、とても人間味にあふれています。そして、いっぱい楽しいことをして遊びます。でも、夜にみんなが寝てしまうと、かんたは急に心細くなってきました。そしてかんたがとった行動は……。なぜかキュンと切ない終わり方の絵本です。

この物語の良さをあらすじだけでは全く伝えることは、とても不可能です。なぜなら、絵を見ながら、声に出して読んでみて、得られるおもしろさが、とても大きいからです!厳選されたリズム感のある文章。リズム感を出すために、文章は極力情景描写を省略しているように感じます。そして、その分、絵で細かな情景描写がされています。絵本に深みをと厚みを持たせている挿絵と文章はベストコンビだと私は思っています。きらきらのクラスに置いておきますので、お時間のあるときに、ぜひお子さんと読まれてみてください。

子ども達が怖かった  
もんもんびゃっこ



おもちのなる木

